

第1学年A組 道徳学習指導案

期 日 令和元年10月11日 第5校時

生徒数 男子18名 女子15名 計33名

指導者 教諭 阿部 桂子

1 主題名 明るい家庭をつくるために 指導内容：家族愛、家庭生活の充実（C-14）

2 教材 「母はおいしい」（出典：「新しい道徳1」東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）道徳的価値について

家族は、親子及び兄弟姉妹という関係により一般的に成り立ち、その一人一人が、誰かと取り替えることができないかけがえのない価値を有する存在である。祖父母や父母が在ること、そして自分は、そのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられていることに気付かせることが大切である。その中で、家庭は、家族と共同して生活しながら、社会の一員として正しく行動し得るための準備が行われる場所でもある。しかし、家庭は、人間関係の緊密さなどを発端として生じるいさかいやトラブルなどによって、子どもがゆがめられる危険性が潜む場所でもある。今日、家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一様でないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切である。こうした自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにつながると考える。

（2）生徒の実態について

本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多く、話し合い活動にも意欲的に取り組む生徒が多い。入学して半年ほどが経ち、中学生として自我が芽生えてきたことや部活動が忙しくなったこともあり、家庭でのコミュニケーションが少なくなった様子が見られる。また、親は子どもに対する愛情から、様々な要求や期待を持っているが、お互いの理解不足、気持ちのすれ違いからトラブルが起こることも少なくない。こうした時期に、改めて一番身近な家族、友人の大切さについて理解を深め、お互いに感謝し合って温かい家庭や人間関係を築いていこうとする心情や態度を育てていきたい。

（3）教材について

この教材は、自分は家中の雑多なものが詰め込まれているおいしいと同じだ、という母親の言葉から、作者がもう一度母親というものを別の角度から見直して書かれたものである。表面では、なんの苦労もなさそうに明るく、友達のような母親が、実は、家族の生活がうまくいくようにと、みんなの知らないところで気を配っているのだということを知って、作者は改めて母親に感謝し、自分の心を反省する。自分の見えないところで、実は家族が支えてくれていることや、家族の温かさに気づかせてくれる教材である。

（4）指導に当たって

家庭生活の充実は、学校生活や生徒本人の精神的な安定のために最も重要なことだと考える。また、生徒たちは、家庭での人間関係を基本として、友人関係や学級、学年の仲間関係を築いていく。指導にあたっては、主人公が母の言葉から、自分を支えてくれていたことに気づき、自分の行いや心を反省する場面から主発問を構想することとし、普段の自分自身の行いや言動を振り返ることを通じて、本時のねらいに迫っていきたい。そのための手立てとして、主人公の心情について、4人グループで話し合う場面を設定し、グループでの意見交流を通して、多面的・多角的に考えさせていく。自分と家族の関わりが人間としての生き方の基礎であることを理解させ、その際に、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気づくことができるようにしたいと考える。

4 本時の学習指導

(1) ねらい

子を思う母、母を思う子、それぞれの立場の心情を考えることを通して、家族が互いに信頼し合い、感謝し合う温かい家庭を築いていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問 ◎主発問)	教師の活動と手だて
導入	<p>1 本時に関わる問題意識をもつ。</p> <p>○家族の一員として取り組んでいることを挙げてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除や洗濯 ・買い物の手伝い など ・家族についてどのような気持ちをもっているか、事前のアンケート結果を紹介する。 ・心情円を使って、家族に対する今の気持ちを表す。 <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 家族が笑顔で過ごすために自分にできることを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の分担が当たり前になっても、それが家族の幸せにつながっていることにきづかせたい。 ・事前のアンケート結果をテレビの画面に映し出し、紹介する。
展開	<p>3 「母はおいしい」の範読を聞き、母の気持ちを考える。</p> <p>○「おいしい」とはどのようなものか。</p> <p>○「母ちゃんもおいしいだよ」とはどういう意味か。</p> <p>○なぜ、母は家族のいろいろな思いを心の中にしまっておいたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の関係がうまくいくようにみんなを気遣っていた。 ・心配するのは自分だけでいいと家族を思う気持ちがあった。など <p>◎「母の心の中が、おいしいと同じ」という話を聞いて、「私」がすまなく思ったのはどんなことに気付いたからだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母が心の中のことを誰にも言わずに抱えていたことに気づいたから。 ・「私」のことだけでなく、家族みんなのことで悩んでいたのかもしれないと思ったから。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけずに確認する。 ・頑張ってきた母の心、母の家族を思う心に気づかせる。 ・4人グループで司会、書記、発表者を決めて話し合い、交流させる。 ・まなボードを使って、グループの意見を発表させる。 ・母の苦労に気づくように、話し合いの時間をしっかりと確保する。 ・母の優しさや我慢強い気づかいに対して、すまなく思う「私」に共感しているかに着目する。
終末	<p>4 本時の自己を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について、授業を通して感じたことをAシートに記入し、シールを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時の自分と感じ方に変化があったかどうかを比較させる。

(3) 評価

①評価の視点

教材の母と子の関係についての話し合いを通して自分を振り返り、明るい家庭を築くために自分には何ができるかを考え、家庭生活を充実させていこうとする意識を高めている。

②評価の方法と場面

基本発問や中心発問における話し合い（グループ内での発言の机間巡視、まなボードの記入）
 家族が笑顔で過ごすために自分ができていることを考えているか（発表内容、プリントの記述）